

2025年 2月15日

関係者各位

公益社団法人日本バイアスロン連盟
会長 出口弘之

フッ素ワックス使用禁止及び検査実施について(通知)

近年、フッ素化ワックス及びこれらのワックス製品を構成するペルフルオロオクタン酸(PFOA)化合物の環境への負荷やアスリート及び関係者の健康被害への懸念により、その使用が国際的な問題になっています。

国際バイアスロン連合(IBU)はこの状況を踏まえ、2023/2024 シーズン以降、すべての大会においてフッ素ワックスの使用禁止を決定し、フッ素ワックス検査を実施しています。

日本バイアスロン連盟(JBF)も看過することなく、2024/2025 シーズン以降、フッ素ワックスの使用を全面禁止することを宣言します。また、国内におけるバイアスロン大会がフッ素ワックス検査の対象となり、以下の要領にて検査の実施を開始することを通知いたします。

JBF の宣言及び検査への皆様のご理解、ご協力、ご支援をよろしく申し上げます。

記

IBU 規則(競技者とチームスタッフの責任)

IBU の規則(ECR1.5.2)において、スタート前及びフィニッシュ後のマテリアル検査について下記のように定められています。

「競技者およびチームスタッフは、IBU 広告規定、IBU 規定に則った素材、用具、衣服、広告を使用してのみ、IBU のイベントまたは大会に参加することができる」と記載されています。フッ素ワックス検査もこの規定に当てはまり、「競技者およびチームスタッフは、マテリアルや広告に関するすべての規則に則っているかを確認し、スタート前とフィニッシュ後にマテリアル、備品、服装の検査を受ける責任がある」とされています。

[Rules 2024 EN cap4.pdf](#)

【①IBU の規則(ECR1.5.2) 英語版・和訳版】 別添

IBU すべてのフッ素製品の使用禁止

国際バイアスロン連合(IBU)は、2023/2024 シーズン以降、すべての大会でワックスを含めたフッ素製品の使用を禁止することを決定しました。

IBUWC、WCH、IBU カップ、OECCH、OWG では、すべてのスキーの検査が実施されます。アスリート及びチームスタッフは、IBU 規則(ECR 1.5.2) で定められたワックスを使用して大会に参加する責任と義務があります。

日本バイアスロン連盟(JBF)は IBU 規則に準拠し、2024/2025 シーズン以降フッ素ワックスの使用を禁止します。

【②IBU イベントのフッ素テストプロトコル 英語版・和訳版】 別添

JBF フッ素ワックス検査の対象

フッ素ワックス検査は公認大会のすべての種目を対象に行われます。フッ素ワックス検査を実施する大会は無作為で抽出され、大会名・会場・種目・検査数等を JBF は公表いたしません。

検査の方法

1. ワックスキャビン及びチームテントへの立ち入り検査
2. フッ素ワックス検査機器によるスキー検査
3. その他の検査

違反した場合の措置

検査の結果、フッ素ワックスの使用や保有が確認された場合は、日本バイアスロン連盟倫理規程及び処分基準に則り、注意以上の処分が科される場合があります。

フッ素ワックスクリーニング方法

ワクシング用具、スキー、スキーバッグ、ワックスボックス、作業着等にはフッ素ワックスが付着している場合があります、クリーニング方法のポイントを記します。

◎ワクシング用具：

ワクシング用具を掃除する際に最も重要なのは、すべてのホコリを取り除くことです。高圧エアーや掃除機で用具を丁寧に掃除しましょう。

ブラシに関しては、ワックスクリーナーにブラシを浸した後、高圧エアブローを行い、乾いたら掃除機で吸い取るようにして下さい。

柔らかいブラシ、ロト・ウール、ロト・フリース(パウダーや液体に使用)は洗浄が難しいことから、交換するのがベストです。

スクレーパーはワックスリムーバーできれいにしましょう。ワックステーブルとスキープロファイル、スキーバイスもきれいにします。

アイロンはフッ素フリー(FF)ホットワックスでクリーニングし、きれいなペーパーで拭き取ります。

◎スキー：

フッ素からベースをきれいにする方法としての再研磨(ストーンフィニッシュ)は、今のところフッ素を完全に除去する方法として結論が出ていません。そのため、再研磨後もFFワックスでベース(滑走面)を数回ホットワクシングすることをお勧めします。まず、液体ワックスリムーバーでスキーを最低2回クリーニングします。

その間にブラッシング(メタルブラシ)をし、乾燥させます。フッ素ワックス用ワックスリムーバーにはフッ素が含まれている場合がありますので、普通の液体ワックスリムーバーをご使用下さい。

次に、ホットワックスで最低 2 回スキーをクリーニングし、それを削り取ります。フッ素フリーワックスと清潔な道具(スクレーパー、ブラシ等)を使うことに注意して下さい。

ベースとなるワックスは、自分が使いやすいものを選ぶこと(柔らかいワックスと硬いワックスのミックスが良いようです)。使用するワックスがフッ素フリーであることを確認して下さい。

雪上トレーニングに行く際は、FF ワックスでワクシングをするだけでなく、クリーニングをしたすべてのスキーで一度滑って下さい。

◎スキーバッグ:

スキーバッグは、ブロワーや掃除機で丁寧に掃除して下さい。

◎ワックスボックス:

ワックスボックスとボックス内にあるすべての引き出しをブロワーや掃除機、ワックスリムーバーで丁寧に掃除して下さい。

◎作業着(エプロン、グローブ、キャップなど):

フッ素フリー製品を使用する前に、作業着やエプロンを洗濯して下さい。衣服やエプロンにフッ素が付着している場合、スキーからフッ素が検出される可能性があります(コンタミネーション)。

◎ワックス :

使用するワックスがフッ素フリーであることを確認して下さい。また、フッ素の含有量に確信がない限り、独自の外部添加剤を混ぜないで下さい。このプロジェクトの経験から、多くの製品、特に洗浄剤や潤滑剤には禁止されているフッ素系添加剤が含まれていることが分かっています。

シーズンに向けてワクシング用具を準備する際、思慮深いアプローチと様々なクリーニングの手順をよく理解することが必要です。

まず、大きな部品(ワックスキャビン、テーブルなど)のクリーニングから始め、次に細部のクリーニングに移るのが良い手順になります。そうしないと、途中でフッ素が混入するリスクが大きくなり、フッ素を完全に除去するためには、手順やステップを何度もやり直さなければならなくなります。

https://assets.ctfassets.net/cz0vl36hcq0x/5w5p9039J0thHJSEJ1DD7X/059c9b0c15a204c712c5ba26c4ba1554/IBU_Fluor_cleaning_recommendations.pdf

【③フッ素洗浄の推奨 英語版・和訳版】 別添

※①②③共に英語版と和訳版に相違がある場合は、英語版を優先します。